

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究面】</p> <p>昨年度から引き続き「オープン・イノベーション」の有効性に関わる研究を行った。特に、企業が新たな製品やサービスを提供するうえでオープン・イノベーションが必要とされる環境変化や時代背景について考察した。その成果として、『高崎経済大学論集』第56巻第1号に「オープン・イノベーションの背景」というタイトルの論文が掲載された。</p> <p>また、オープン・イノベーション研究の流れの中で、今日、知識の融合によるイノベーションの実現や起業家の輩出を促進しうる場として注目を浴びている「コワーキングスペース」に関わる研究を行った。コワーキングスペースは、多様な個人が直接接触することによってイノベーションや起業の苗床となる可能性を秘めている。一方で、少なからず課題が存在することも事実である。そこで、コワーキングスペースのメリットと同時にデメリットを探る研究を行った。</p> <p>今後は、コワーキングスペースを含め、オープン・イノベーションが有効性を発揮する範囲に関わる研究を行っていきたい。</p> <p>【教育面】</p> <p>大学院では、博士前期課程1年および2年の学生（各学年とも1名ずつ）の演習を担当した。また、大学院の講義において、社会人聴講生を受け入れた。前期課程1年の学生については、経営戦略の基礎を修得させるべく、最新のテキストを用いそれベースに議論を交わし知識の深化を図った。前期課程2年の学生については、「模倣によるイノベーションの有効性」に関わる修士論文の指導を行った。同学生は、論文審査を通過し修士号の学位（経営学）を取得することができた。また、社会人聴講生については、中小企業のコンサルティングを仕事としていたため、実践に役立つような経営戦略のフレームワークを教示した。</p> <p>また、学部のゼミでは、4年生の卒業論文作成、および、3年生のインナー大会向け論文作成に向けて、通常の演習に加え合宿を開催するなどして指導を行った。さらに、前年度から引き続き、3年生が本学内の他のゼミと統一テーマの下で討論する機会を設けた。論文作成や討論は、学生にとって負担が少なくなかったようであるが、イノベーションや経営戦略に関わる専門知識を修得するという意味で、十分な成果が得られたと考えている。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>①(社)群馬情報サービス産業協会からの依頼により、「なぜ今オープン・イノベーションが注目されるのか?～その新しさと時代背景～」というテーマで講演を行った。</p> <p>②JA群馬中央会からの依頼により、「JA職員長期研修会」において、「イノベーションの概念とマネジメント」というテーマで講義した。</p> <p>③群馬県産業経済部産業政策課からの依頼により、「群馬県優良企業表彰」の審査委員を</p>	

務めた。

④上毛新聞から「コワーキングスペース」に関わる取材を受けた。

以上